



農村地域づくり活動を支える 若手・女性等事務担当者の育成 3 (2023年4月3日)

多面的機能支払交付金を利用する組織は、高齢化の進行に伴って活動を継続することが困難となっているため、三川町は「三川町広域協定運営委員会(会長 齋藤学さん)」を設立し、事務負担の軽減を図りました。

鈴木恵さん(写真右)と吉永桂子さん(写真左)は、広域協定運営委員会の事務局に採用されました。

二人は、農業関係の用語の意味を理解できず、右も左も分からないスタートでしたが、町と県総合支庁に質問しながらスキルアップしました。

「事務局があるので活動を続けることができたと言われた時や、きれいに維持管理された水路や農道を見た時は、事務局をやって来て良かったと思う。農家と非農家と一緒に活動すること、子ども達が農家と一緒に稲刈り体験することは大事だと思う。」と話しています。

勤務時間は午前9時から午後4時で、事務局長との3人体制で、活動状況を証明できる書類の整理や会計処理を行っています。

【取材：庄内PJA 北川】





畑地区 工事完成！(2023年4月19日)

遊佐町畑地区のほ場整備工事について、令和4年度の工事が完成しました。

令和4年度は4.2ヘクタールの区画で、区画の拡大や用排水路の管路化、農道の整備、調整池の設置等を行いました。

夏場の長雨で工事の遅れが心配されましたが、施工業者、月光川土地改良区、地元関係者のみなさんの協力により、無事に完成を迎えることができました。

今後は、大型機械の導入などによる生産性向上や維持管理労力の軽減が期待されます。

本地区では4月下旬頃に耕起を始め、5月上旬に田植えを行う予定です。今年も実りの多い秋になることを祈ります。

【取材：庄内PJA 安食】



農業農村整備事業関係職員の現場研修会 (2023年4月26日)

農業農村整備事業に関わる県の職員を対象にした現場研修会を3月に開催しました。

鶴岡市長沼では、降雨時における農地や近隣家屋への湛水被害軽減のため、排水機場の新設工事を行っています。

工事では、排水機場の基礎となる現況地盤の支持力が不足するため、深層混合処理工法（CI-CMC工法：写真左側）による地盤改良を実施しています。この工法は、セメント系固化材を地中に霧状に噴射する特殊な機械により、現況地盤と攪拌混合して固化させるもので、特許が取得されています。

また、庄内町余目では50年が経過して老朽化した用水路の更新・補修を行っており、一部区間では既設水路の側壁に強化プラスチック板の貼り付け（写真右側）が行われています。

現場に応じた様々な工法を見たり聞いたりすることで、職員の技術力向上が図られ、効率的・効果的な事業の推進につながることを期待されます。

【取材：庄内PJA 菅野】





今年の五穀豊穰を願う 水神社祈念祭 (2023年5月10日)

令和5年の農業用水の安定確保と通水の安全、河川の防砂、そして五穀豊穰を祈願する水神社（すいじんじゃ）祈年祭が鶴岡市馬渡の中川水神社（写真）で執り行われました。

中川水神社は、一級河川赤川右岸の農業水利を所管していた中川土地改良区（平成17年に解散合併）が昭和10年に建立し、かんがい、農耕の神である水波能売神（みずはのめのかみ）を祀った神社です。

現在は鶴岡市、三川町、酒田市、庄内町の農地約11,000ヘクタール余りの農業水利を所管する庄内赤川土地改良区が所有管理しています。

式典では、庄内赤川土地改良区役職員及び行政等関係機関の参加のもと、宮司による神事が執り行われました。

水田へのかんがい用水需要期に行われるこうした祭典は、ここ庄内管内では多く執り行われており、昔から変わることなく今日まで続く春の農村の風物詩となっています。

【取材：庄内PJAリーダー 足達】





大学様の偉業を伝える北館神社例大祭が斎行される (2023年5月17日)

当時荒野であった庄内平野にかんがい用水を引き入れ、庄内農業の振興と村落社会の形成に大きな功績を残された北館大学助利長（きただてだいがくのすけとしなが）公（以下、大学様）の偉業を称える北館神社例大祭が斎行されました。

1601年、狩川城主として赴任した大学様は、水不足で耕作に苦しむ領民の姿を目の当たりにし、月山を水源とする立谷沢川から狩川方面にかんがい用水を引く計画を立て、1612年に北楯大堰の開削事業に着手しました。

現在の北楯大堰は、県営事業や国営事業により大規模な改修が進められた後の姿となっていますが、沿線には殉難十六夫慰霊塔や青鞥之淵遺跡碑が建立されており、大学様が行った開削当時の苦難をしのぶことが出来ます。

2018年、北楯大堰はかんがい農業のみならず地域経済発展への貢献度が高い歴史のかんがい施設として世界かんがい施設遺産に登録されました。

毎年5月1日に行われる北館神社例大祭は、大学様の偉業を後世に伝承する良い機会として、また本年の五穀豊穰と人々の平和と安泰を祈願する祭事として地域に深く根付いています。

【取材：庄内PJAリーダー 足達】





農地整備事業「一本松地区」いよいよ着工！（2023年5月23日）

一本松地区（鶴岡市羽黒町仙道）では、生産性向上や農地集積を目的とした区画整理工事が今年度から本格的に始まります。

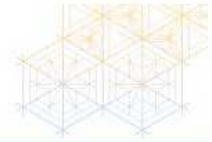
工事への着手に際し、2023年5月10日、地元一本松地区のほ場において「起工式」が執り行われました。

地鎮の儀では「えい、えい、えい！」の掛け声とともに、主催者の笹川土地改良区、庄内総合支庁、工事施工業者の各代表が、盛砂にそれぞれ鎌、鍬、鋤をいれ、工事の順調な進捗と安全を祈願しました。

待ちに待った37ヘクタールの区画整理がいよいよ始まります。

【取材：庄内総合支庁農村整備課 沓澤】





小学4年生30名が「めだかの里米 田植え体験」(2023年6月7日)

今年も庄内町家根合地区で、庄内町立余目第一小学校の4年生30名が「めだかの里米 田植え体験」を行いました。

このイベントは、NPO家根合生態系活動センターが主催し、18年前から地区の小学校と共催で行っている行事で、環境にやさしい安全・安心な米づくりのPRと子どもたちの環境教育活動として定着しています。

はじめに、NPO家根合生態系活動センターの大井庄一理事長と最上川土地改良区職員から説明を受け、いざ田植え開始。

おそろおそろ田んぼに入ると、最初は「気持ち悪い」「ドロドロだ」といった声が上がりましたが、感想発表では「楽しかった」「いい体験ができた」といったうれしい声をいただきました。

秋の稲刈りが楽しみです。

【取材：庄内総合支庁農村計画課 高橋】





山形大学農学部生が農地の大区画化工事等を見学 (2023年6月14日)

山形大学農学部食料生命環境学科の3年生が水土環境実験実習の一環として、鶴岡市で実施中の県営農業農村整備事業の現場を見学しました。

この取組みは、山形大学農学部、山形県土地改良建設協会及び山形県の三者連携により実施したものです。

学生たちが、現場を実際に見て、現場の技術者から事業の目的、事業計画（目的達成のために何をするのか）、現在までの進捗状況、苦勞した点や工夫した点を聞くことで、農業農村整備事業の果たす役割を理解するというものです。

1つ目の現場は金森目地区で、現況ほ場90m×10～20mの狭小な区画を200m×55mの大区画にすることで農業生産性を向上させる工事の実施状況や、地下かんがい施設での地下水の制御による新たな作物の取組みについて説明を受けました。

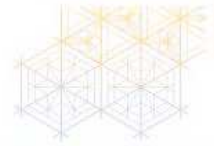
2つ目の現場は笹川地区で、農業用水路の水を利用した小水力発電を行うことによる農業用水利施設の維持管理費の軽減、低炭素社会の創出に向けた取組みについて説明を受けました。

学生からは、「気を使っている工程とその理由は何ですか」など、たくさんの質問がありました。

今回の現場講義を通して、農業農村整備事業の重要性について理解が深まるとともに、将来農業土木技術者として農業農村整備に携わることを期待したい。

【取材：庄内PJA 八畝】





中山間地こそスマート農業の推進を (2023年6月21日)

酒田市大台で、水管理作業の省力化検証のため、パソコンやスマートフォンを使った水管理の操作説明会が行われました。

大台地区は鳥海山麓の山間に開けた水田で、見上げれば鳥海山が、見下ろせば日本海が見渡せる中山間地にあります。

元々狭小で作業効率が悪い水田でしたが、2000年から2006年にかけて区画整理され、作業効率のよい水田となりました。

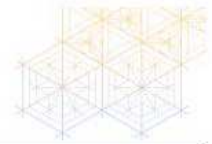
それから17年が経過して、農業者の高齢化が進み地域農業をとりまく環境は大きく変わりましたが、農作業にかかる時間は当時から大きく変わっていません。

そこで、水田への移動だけでも時間がかかる大台地区では、自宅から水田の水位等の把握や、給水栓の操作を行うことによって、作業効率が大きく改善されることが期待されます。

農業農村整備事業では、スマート農業の基盤整備を通じて農作業の効率化を進め、地域農業の継続を支援しています。

【取材：庄内PJA すがの】





月山高原の大自然の中で みんなで楽しく種まきイベント(2023年6月28日)

鶴岡市羽黒町の月山高原畑団地で、月山ろく環境保全会（運営委員会代表 鈴木昭夫さん）が種まきイベントを行いました。遊休農地の有効活用を図ろうと平成27年から実施していますので、9年目になります。

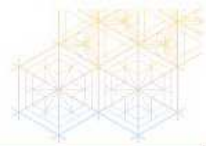
今年は、庄内地域から子ども連れ家族など約100人が参加して、サツマイモの苗植えと里芋の移植を行いました。

月山高原は標高130～400メートルにあり、大自然の中に広大な畑団地が広がっています。

参加者は、「子どもと一緒に自然体験できる機会が少ないので、大変うれしい」「いっぱい苗を植えられたから、楽しかった」と喜んでいました。秋には収穫祭を予定しています。

【取材：庄内PJA 北川】





青空に映える 地域の手づくり花壇 (2023年7月5日)

鶴岡市馬町の馬町米出(うままちよねで)地域保全会(代表 阿部正利さん)が、地域の手づくり花壇の植栽を行いました。

2007年から景観形成活動に取り組んでいますので、17年目になります。

今年は、地元の子ども会与農家など約60人が参加して、色とりどりの花の苗を植えました。

農道と水路の間に造られた花壇は、延長約150メートルです。

梅雨の晴れ間に恵まれ、子どもたちと大人と一緒に作業して、ポット苗の植え付けを楽しみました。

【取材：庄内PJA 北川】





「水はいのち」先人の労苦を後世に伝える溜池神社例祭の斎行 (2023年7月12日)

庄内平野では、古くから豊富な自然の流水や溜り水を共有財産として大切に守り農業に利用してきました。

庄内平野の北部に位置する日向川土地改良区では、先人が労苦をいとわず築いてきた利水の歴史に敬意を表し、農業に欠かせない水はいのちであることを後世に継承するため、毎年6月、溜池神社例祭を斎行しています。

今年の例祭も、ため池のほとりに水神社が建立されている荒瀬川及び日向川の最上流に位置する五台溜池（写真1・4）、堂見沢溜池（写真2）及び数河溜池（写真3）にて執り行われました。

五台溜池は、1733年（江戸中期）に築造された古いもので、茨堰、寺田堰、前川堰、郷野目堰、新田目堰の五堰（酒田市市条から本楯エリアに配水した水路）に水を平等に分配する目的を有していたとされています。

堂見沢溜池は、大正後期に行われた区画整理に伴う用水量の増加に対応するため昭和4年に築造された施設です。

数河溜池は、鳥海山系の水源として大正5年に築造されたもので、明治20年頃に導入された乾田馬耕農法の普及と共に増加する水需要に対応するものでした。

現在では、いずれのため池も干ばつ時の補水を主目的としていることから、できればこの水を使うことなく秋に五穀豊穡を迎えられるよう、関係者一同、神事で祈りを捧げました。

【取材：庄内PJAリーダー 足達】





農業農村整備事業の生きもの調査 ～環境との調和に配慮した取り組み～ (2023年8月2日)

土地改良法に基づき実施する農業農村整備事業は、ほ場整備などの工事に際し、「環境との調和に配慮」することが法律で規定されています。

そのため、事業を行う前に環境配慮計画を策定することで、生態系への影響を回避・低減する対策を検討することとしています。その検討のため、現状の動植物の生息状況を把握する"生きもの調査"を実施しています。

今回の生きもの調査は、上戸地区（遊佐町）を皮切りに、堀野地区（庄内町）、中平田南第一地区（酒田市）の計3地区で6月に調査を行いました。

上戸地区では、絶滅危惧種のアホウドリ（写真1）やニホンアカガエル（写真2）、準絶滅危惧種のツチガエルやアカハライモリのほか、マドジョウ、アキアカネやオニヤンマなどの幼生、モクズガニなど、様々な生きものが確認できました。

今後は、調査結果を基に、地域のみなさんと環境配慮計画を検討していきます。

【取材：庄内PJA 土田】





農業用ため池～ハスの収穫～ (2023年8月16日)

鶴岡市大山にある上池、下池の湖面には毎年7月下旬から8月にかけてハスの花が咲きます。

お盆の時期になると、ハスを管理している浮草組合さんが花や葉の収穫を行い販売しています。

今年は下池で刈取作業が行われましたが、この風景は地域の夏の風物詩となっており、ハスは貴重な地域資源として活用されています。

下池は約400年前の江戸時代に農業用ため池として築造され、水源は山からの沢水や湧水、雨水などによって涵養されています。

平成7年から平成17年にかけて県が事業を活用し、取水施設や管理用道路、水路、野鳥観察小屋などの整備を行っています。平成20年には下池は近隣の上池とともに特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地であると認められ、ラムサール条約に登録されました。

下池の堤防にある野鳥観察小屋「おうら愛鳥館」では多くの渡り鳥を観察することができます。

ため池は農業用水の貯留のほか、動植物の貴重な生息場所として、またその景色は訪れた人を和ませしてくれるなど、多様な側面を持ち合わせています。

【取材：庄内PJA 佐藤(玲)】





夏に水を張った「なつみず田んぼ」で生きもの調査 (2023年8月23日)

三川町の対馬(つしま)地区環境保全協議会(代表 菅原誠さん)が、夏に水を張った「なつみず田んぼ」で生きもの調査を行いました。

対馬地区は、毎年、子どもたちが参加する生きもの調査を実施して、地域の環境と農業に対する理解を深める活動を続けています。

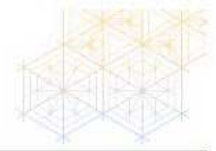
今年は、押切小学校の児童ら10人が、水を張った田んぼの中を歩きながら、予め仕掛けておいた20個の罫を回収して、田んぼの生きものを確認しました。

田んぼには5668種の生きものが生息しています。

とても珍しい、ミズカマキリやイトトンボを見つけて、子どもたちは大喜びでした。

【取材：庄内PJA 北川】





2万本のひまわりをバックに「軽トラピアノ」を演奏 (2023年8月30日)



里山に囲まれた棚田は、その景観や自然環境が昔ながらに守り、受け継がれ、人々に安らぎや癒しを与えてくれる貴重な空間になっています。

このような棚田を次世代に継承するため、山形県では、棚田地域に暮らす人、棚田を保全している人・組織、行政機関など多様な主体と連携し、棚田の新たな魅力発信や価値創出に取り組んでいます。

その取組みの一環として、軽トラックの荷台に載せたピアノを演奏する「軽トラピアノ」が、遊佐町の藤井の棚田で行われました。

藤井の棚田は鳥海山の麓に位置し、日本海と庄内平野を一望できるパノラマ眺望が特徴で、農林水産省のつなぐ棚田遺産にも選定されています。

2012年ごろから休耕地を利用して始めたひまわり畑では、毎年8月に約2万本の花が見頃を迎え、地域実行委員会が開催する「藤夢花火」では棚田から花火が打ち上げられます。

こうした取組みにより、藤井の棚田は町を代表する観光スポットとなっています。

【取材：庄内PJA 池田】

動画はこちらから！





「藤井みらい創造会議 報告会」を開催 (2023年9月6日)

2023年8月19日(土曜日)、遊佐町藤井地区で藤井みらい創造会議の報告会が行われました。

この会では、昨年のワークショップで出た提案をどのように実現していくかをまとめた計画『藤井みらいアクションプラン』が住民に報告されました。

具体的な計画案として、住民が楽しめる行事の継続や新規イベントの企画、つなぐ棚田遺産に選定された藤井の棚田の保全などが紹介されました。

参加者からは「実現に向けた課題はあるができることから始めていきたい。みんなで楽しい集落にしていきたい。」という前向きな意見が多く聞かれました。

今後、集落内の各組織が連携してアクションプランの実現に向けた取組みを始めていく予定です。

【取材：庄内PJA 池田】





海が見える棚田で稲刈り体験 (2023年9月27日)



鶴岡市温海の沿岸部にある暮坪（くれつぼ）の棚田に行ってきました。

この棚田は約30枚と規模は小さいながらも、やまがたの棚田20選のなかで唯一海が見える棚田です。

稲刈りシーズンには、太陽と風を利用して天日乾燥する「杭掛け」が並ぶ棚田と日本海を一望できます。

ここで米を栽培している奥井さんにお話を伺ったところ、夏から秋にかけての水不足に苦労したものの、例年並みの収量を見込んでいるとのことでした。その他、棚田への思いや今後についても取材させていただきました。

取材の内容は、あべちゃんなべちゃんの稲刈り体験の様子とともに後日わんだふる動画でお届けします。お楽しみに！

【取材：庄内PJA 池田】

